

28	陸軍士官必携		
	A J -33	慶応3年(1867)	McDougal原著 渡部一郎訳 柳河春三閱
	マクドゥーガル著 “The Theory of War” (「戦争論」) の訳書。		

- ◆ 原著者のマクドゥーガル (McDougal) は英国セント・ホルスト兵学校の教官である。本書は戦争の実例を理論的に分析した戦術書である。その内容は実践的な色合いが濃く、実戦の舞台となった戦地の地図を豊富に載せ、具体的な進軍の過程等が解説されている巻もある。

訳者の渡部一郎(1837-1898) は、幕末から明治初年にかけて活躍した英学者である。幕末期、蕃書調所、開成所で英学を教授していた時期に、『陸軍士官必携』の第1巻を幕府当局へ献納している。幕府瓦解後、一時静岡に移り、沼津兵学校の教官を務めた。

- ◆ 本書は全10巻であるが、当館所蔵分は第1～5巻である。そのいずれも「箱館御役所」及び「駿府学校」の印記をもつ。表紙裏には渡部の沼津時代の書斎名である「無尽蔵之印」が押されている。

29	砲兵程式		
	A J -34, A J -41	慶応3 (1867)	
	オランダ陸軍の砲兵教鍊書の翻訳本。陸軍所から発行された。		

- ◆ 9巻・10冊の本文(AJ-33) 及び図版1巻(AJ-41) から成る。本文各冊の標題は次の通りである。

- 1 馬具新式 2 四斤螺砲新式 3 調装則 4 劍銃使用法
5 馭者演則 6・7 砲手教則 8 騎馬筒組小隊教則 9・10 大隊教則

図版は折本の体裁で、第1巻の「馬具新式」で述べられている馬具の図(33種)が収録されている。

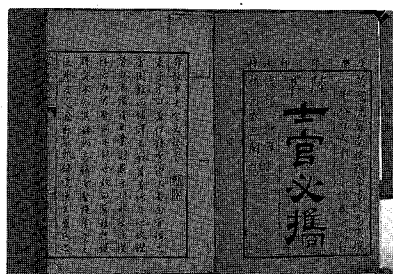
発行元の陸軍所は、安政3年(1856)に軍備増強の一環として幕府が創設した講武所を前身とする。慶応2年(1866)、陸軍奉行の支配になる陸軍所が設置され、講武所の砲術部門がそこに移管された。

- ◆ 当館所蔵本には「箱館御役所」「駿府学校」「静岡師範学校」「攬英武揚之印」の印記がある。「攬英武揚之印」は榎本武揚との関連が想像されるが、確認されていない。

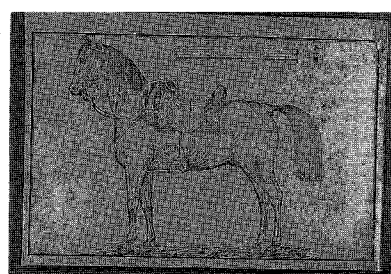
*マイクロフィルムあり。

<参考文献> 「渡部温略伝 ー初期ー英学者の歩んだ道」(『英学史研究』第16号 所収)(Z83-4)
「幕末明治の洋学者・渡部温(一郎)覚書き(1)(2)(3)」

(『愛知教育大学研究報告』第32,33,34輯 所収)(Z05-ア2)



28 陸軍士官必携



29 砲兵程式 (図版)